

2017年11月13日

## 山東島津放射技術講座 第三期第三回講義 報告

堀井 均

2017年10月28日から11月4日まで8日間、中国山東省済南市の山東医学高等専門学校で4日間放射線計測学の出張講義を行ってきました。

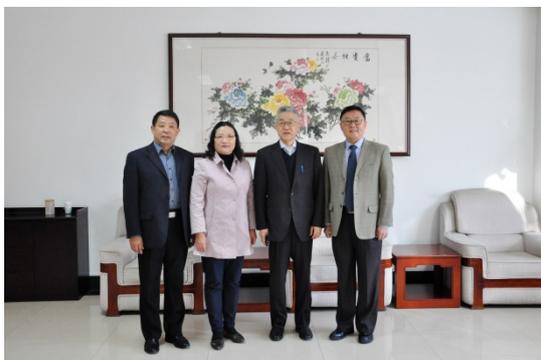
3年前の春の出張講義を行った時は北京経由で済南入りのため空港での待ち時間で長く、着いた時には真夜中であった記憶があった。今回は28日(土)夕方4時の関空発で夜8時にはホテルに到着する直航便で、飛行時間は2時間半程度(新幹線の東京～大阪間の所要時間)であり、疲労の程度も少なく快適でした。翌日の日曜日は講義もなく、ホテルの周囲を散策し、3年前の春の時のように大気汚染もなく、素晴らしい青空を見ることができたが、月曜日からは3年前と同様に大気汚染で帰る日まで青い空を見ることが無かった。また、写真でも理解していただけるように多くの高層ビルや高速道路がどんどん建築されているところに中国の活気を感じたしだいです。



講義は画像、治療の2年生、3年生約200名に対して、月曜日から木曜日まで朝8時から11時、14時から16時までの毎日5時間、放射線計測学の講義を行いました。中国の技師学校の講義内容は臨床が主であり、放射線計測学は放射線物理学の延長として講義のみで、半分程度しか理解が得られていないように思いました。この学校は短大(三年制)でありながら、本学と同様に古い伝統があり、四年制の大学に負けないほどのレベルの高い学校とのことです。ほとんどの学生が学校内での寮生活で、朝は8時から12時、午後は14時から17時までの講義、夜19時から21時まで自習し、10時半には消灯とのことで良く勉強し、規則正しい生活を送っている。

実際の講義は4日間でスライド250枚を用意し、通訳の李教授が学生の配布用に翻訳した資料をもとに、私の日本語での説明、李教授の中国語での説明と普段の2倍の時間がかかりましたが、配布資料の最後まで講義しました。全く新

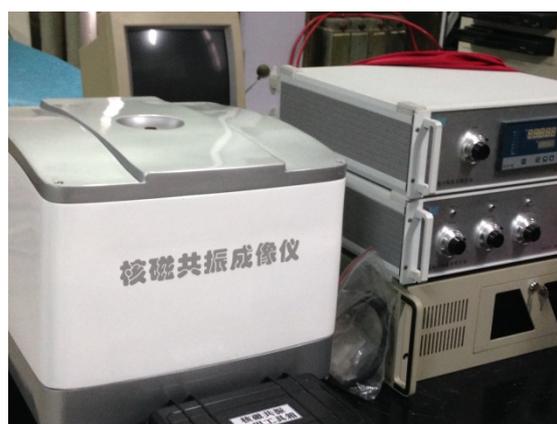
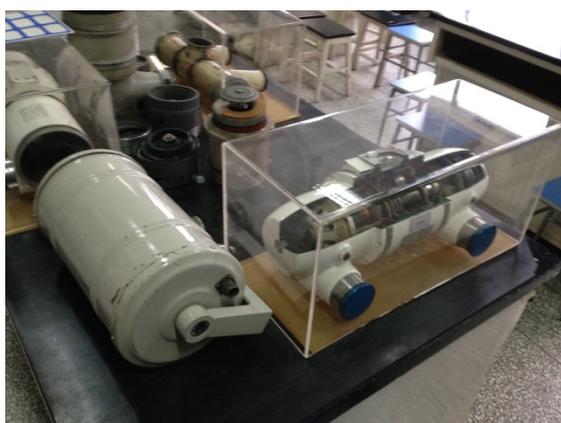
しい学問（計測学）にも学生は熱心に聞いてくれたと思っています。  
また、学生が眠くなった午後には、本学の新校舎の紹介、日本のアニメの紹介、  
ゲーム等で気分転換もしました。



学校内の食堂、教室、実験室も李教授に案内していただきました。校内には大  
食堂が 2 か所あり、昼食時には 8 千人の学生が入るスペースがあり、メニュー  
も多く、非常に安く食べることができます。



実験室に置いている装置は非常に古く、多くは故障して動かなくなっているとのことでした。CT装置は日本の展示会の時のようにX線は出ず、テーブル等の移動可能な装置を普通の講義専用の教室に設置し、患者のセッティングの教育に使用していた。また、MRIも同様に臨床用の装置は展示用に解体、実験装置として試験管での測定が可能な装置ありました。この点については本学の設備の充実ぶりに満足いたしました。中国ではまずは臨床に使える技師の養成に重点を置いた教育がはっきりとわかりました。



日本と中国、国は違うが我々の目的である「学生に理解できるように講義する」ことは同じである。今後はこの貴重な経験を本学でも有効に生かしていきたい。今回このような機会を与えてくださった本学、島津製作所ならびに山東医学高等专科学校に心から感謝申し上げます。